

大きな温度変化なし

90年ごろと比較 全体的に減衰傾向

温泉エネルギーの活用と保護をテーマにしたイベントが22日、別府市であった。市内で研究者と市民が一緒に実施した源泉一斉調査について「温度に目立った変化はないが減衰傾向は続いている」とする報告がされた。

別府の源泉一斉調査

NPO法人・別府温泉地球博物館の由佐悠紀理事長が、13日に行った源泉一斉調査について分析の途中経過を報告した。調べた源泉は温度低下が見られ、全体



源泉一斉調査の報告をする別府温泉地球博物館の由佐悠紀理事長。22日、別府市

として減衰傾向が続いている」と述べた。成分分析など最終的な調査結果は同博物館のホームページで公開。調査は継続していきたいとした。



源泉一斉調査の結果を踏まえてパネルディスカッション

イスカッションで、環境省温泉地保護利用推進室の中島尚子室長は「市民参加型の調査は温泉利用者の資源保護意識を醸成する上で意義がある」と評価した。

市内で温泉発電の数が増えて開発と保護のバランスが課題となる中、別府大学の阿部博光教授は「地域の理解を得ながら温泉エネルギーの活用を進めていくには、開発に住民の関与が欠かせない」と強調。

産業技術総合研究所の野田徹郎名誉リサーチャーは「源泉所有者には温泉を利用する権利だけでなく守る義務もある」と指摘。資源保護には源泉への立ち入り検査など厳しい仕組み作りも必要との考えを示した。別府ONSENアカデミアの分科会で、190人が参加した。(系永健太郎)